第 4 問

⑴ 下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、設問ごとに最も適当と思われるものを選び、答案用紙の（　　）の中に記号で解答すること。

1．原料の消費価格差異を計上する。原料費の予定消費価格は 900 円／ kg、実際消費高は 3,500 kg であった。月初の原料有高は 300 kg（1 kg 当たり 940 円）、当月仕入高は 3,800 kg（1 kg 当たり 910 円）であった。原料の実際消費価格は先入先出法で計算している。

ア．材料　　イ．原価差異　　ウ．買掛金
エ．仕掛品　　オ．材料副費　　カ．製造間接費

2．A社では標準原価計算制度を採用し、勘定記入の方法はシングル・プランによる。直接工の標準賃率は 1,500 円／時間、製品 1 個当たりの標準直接作業時間は 4 時間である。実際完成品量 900 個に対する標準直接労務費を計上する。

ア．賃金・給料　　イ．原価差異　　ウ．現金
エ．仕掛品　　オ．製品　　カ．製造間接費

3．A社では本社会計から工場会計を独立させている。工場会計にある勘定科目は材料、賃金・給料、製造間接費、仕掛品、本社である。材料、賃金などの支払いは本社が行っている。当月の水道料、ガス代などの間接経費 200,000 円を現金で支払った。工場での仕訳を示しなさい。

ア．材料　　イ．工場　　ウ．本社
エ．仕掛品　　オ．現金　　カ．製造間接費